



TITLE:

# 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 No. 140

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 No. 140. 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 1964, 140: 1-6

ISSUE DATE:

1964-05-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186898>

RIGHT:

# 水族館月報

No. 140

1964年4月

瀬戸臨海実験所振興会は、昭和39年3月末を以て解散され、水族館は昭和39年度から京都大学に直営されることになった。

この月報は、振興会時代からの通し番号で続刊されるが、内容をいくらかかえて採集・飼育・展示活動の報告を主体とした。

われわれの水族館に対し、せいぜい御意見、御鞭撻をいただくようお願いして、本月報再出発の弁とする。

なお、本号は直営移管後の初号であるから、巻末に全水槽配置図と職員名簿を附した。

## 4月の入場者数

一般団体				有料合計	特別観覧
大人	小人	大人	小人		
71783	3080	18677	2103	95643	

前年度比	1963	1964	増減
入場者数	110390	95643	-14747

## 水族館記事

- ◎ 1日 4623の卓上水槽9個は、これまで、総ガラスのバット（板ガラスを接着剤で組立てたもの）を使っていたが、接着剤の老化による洩水箇所が増してきたので、全槽プラスチックバット（透明メタ・アクリル樹脂4mm板製）に取替えた。
- ◎ 2日 T-3水槽のツバメウオ（昨年7月5日採集・当時5cm）は11cmに成長し、卓上水槽では狭くなったので、C水槽へ移収。
- ◎ 6日 地下貯水槽R-Cを大清掃。昨年同様、冷凍機クーラーから出た多量

の錆を除去した。

- ◎ 7日 齊藤商店と大阪金属の係員により、冷凍機を点検。冷却運転を再開した。
- ◎ 9日 H水槽のハマチ1個体が岩組の間に入りこんで急死。外傷・寄生虫ともに認められず、解剖した結果、死因は脊椎骨折と判つた。何ごとかに驚いて岩の間にとび込み、強打したらしい。体重2.7kg、給餌は隔日であつたが、入槽当時(昨年4月11日1kg)の2.7倍に増量していた。
- ◎ 13日 新着のハモの口腔に刺さつた釣針を摘出するのに、MS-222S ANDOZ (Tricain methane sulphonate) による麻酔を併用し、安全に施術できた。麻酔による副作用は全く認められなかつた。(資料2参照)
- ◎ 15日 雑賀崎漁師より、タカアシガニ(雄)1個体を購入。このカニが一本釣にかゝることは、極めて珍しい。G水槽に収容、今のところ、先住カニとの闘争は認められない。
- ◎ 16日 海洋観測塔の鉄脚下で、ヒガサウミシダ *Lamprometra p. palmata* に共生している、トゲコ マチガニ *Ceratocarcinus Spinosus*
- ◎ 21日 1号冷凍機故障・齊藤商店係員が点検したところ、クーラー熱交換器のアルブラック管が1本亀裂し、冷媒ガスが洩れたためとわかり、修理の手配をした。

この事故の原因は、アルブラック管製造のさいの、ごく稀な製品検査洩れのためであり、防錆の必要上冷却器缶体を硬質塩化ビニール管製としたので、設計上あるいは強度などについて弱点があつたためではなかつた。

- ◎ 23日 №24水槽のトラフグ1個体が死亡。  
解剖したところ、別記(資料3参照)の寄生虫が認められ(西村助手同定)、腎臓の左部分が著しく肥大、肉腫状となつていた。

◎ 4月の動物入手概況

1. 採集作業

日時	採集場所	方法	人員	主な目的動物
9日夕方	船揚場沖	素もぐり	1	モミジガイ類
12日午後	南浜防波堤附近	磯採集	1	ウミウシ類
13 "	円月島	"	2	巻貝類
14 "	"	" と素もぐり	3	ウミウシ類
15 "	塔島東	素もぐり	2	トゲトサカ類
16 "	海洋観測塔下	"	1	ウミシダ類
27 "	円月島	"	2	オトヒメエビ
29 "	"	"	1	ナマコ類

上記のほかに、北浜での地引網便乗採集（引網を手つだい入網した雑魚をもらう）5回

◎ 主な採集動物名（×印は1962年4月1日以降はじめての入槽動物）

無脊椎動物：×ミズクラゲ・オオトゲトサカ・キバナトサカ・オトヒメエビ・

ミズヒキガニ・×トゲコマチガニ・カメノコフシエラガイ・ニシキウミウシ

・×サメジマオトメウミウシ・×ムカデミノウミウシ・ハナイカ・ヒガサウ

ミシダ・オキノテズルモズル。

魚 類：マトウダイ・ギンユゴイ・コシヨウダイ・ハマフグ・シマウミスズメ

・セミホウボウ・シマウシノシタ・ササウシノシタ。

2. 購 入

14日に購入した大マダイ（全長79cm・体重9.3kg）をはじめとして、雑賀崎一本釣漁師よりの入槽が多かった。南部町堺のトロール網によるタカアシガニは本年は不漁で、入手できず。

◎ 主な購入動物名

無脊椎動物：キサング・オオバウチワエビ・アサヒガニ・ケアシガニ・タカアシ

ガニ・オオナルトボラ・コウイカ・テナガダコ・ハナウミシダ・オオアカヒ

トデ。

魚 類：オオセ・ネコザメ・ヒメ・イツトウダイ・マツカサウオ・カイワリ

・シロアマダイ・チカメキントキ・アオハタ・マダイ・イトヨリダイ・タマ

ガシラ・キツネダイ・キンチャクダイ・シマフグ・ホウボウ。

◎ 飼 育 概 況

4月中に白点病が発生したのはJ水槽だけで、ネグボン・硫酸銅浴により治療中。H水槽は、外式戸過槽の併用によつて、浄化能力が向上したので、収容魚類数を従来の約1.5倍に増し、壮観である。無脊椎動物のコレクションは、225種となり、これまでの記録を更新した。

4月30日現在、飼育中の動物は総計425種3824個体以上で、その内訳は次の通り。

このうち、観覧水槽に飼育・展示中の動物は、403種3710個体以上。

カイメン類	3種	8個体	ゴカイ類	7種	21個体	イカ類	3種	7個体
ヒドロ虫類	2"	11"	カブトガニ類	1"	1"	タコ類	4"	7"
ハチウラゲ類	—	—	フツボ カメノテ類	5"	111"	ウミシタ類	4"	11"
ウミトサカ類	6"	11"	エビ類	14"	230"	ヒトデ類	10"	203"
ヤギ類	5"	33"	シヤコ類	—	—"	クモヒトデ類	7"	16"
ウミエラ類	1"	5"	ヤドカリ類	9"	159"	ウニ類	12"	123"
イソギンチャ ク類	7"	109"	カニ類	27"	56"	ナマコ類	8"	46"
イシサンゴ類	11"	45"	アメフラシ類	16"	52"	ホヤ類	3"	41"
ツノサンゴ類	1"	1"	二枚貝類	18"	407"	軟骨魚類	9"	41"
ハナギンチャ ク類	1"	12"	巻貝類	37"	646"	硬骨魚類	188"	1385"
ホウキムシ類	1"	4"	ヒザラガイ類	2"	4"	カメ類	3"	18"

## 資 料

### 1. 4月の気象（午前9時観測）

#### 第1水槽室（水温・比重はNo.24水槽）

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数：15	3	7	5
室 温(°C)	$\frac{16.2 \sim 20.8}{18.3}$	$\frac{18.7 \sim 22.0}{20.4}$	$\frac{16.9 \sim 22.4}{19.7}$
水 温(°C)	$\frac{17.28 \sim 19.67}{18.31}$	$\frac{18.35 \sim 21.30}{19.93}$	$\frac{18.75 \sim 21.86}{20.29}$
比 重(15°C)	$\frac{25.12 \sim 25.99}{25.63}$	$\frac{25.15 \sim 25.74}{25.48}$	$\frac{25.17 \sim 25.74}{25.47}$

#### 第3水槽室（水温）

H水槽(°C)	$\frac{16.1 \sim 19.7}{18.5}$	$\frac{19.8 \sim 22.9}{21.4}$	$\frac{21.0 \sim 23.8}{22.8}$
T-8水槽(°C)	$\frac{18.1 \sim 20.5}{19.2}$	$\frac{19.2 \sim 22.7}{21.0}$	$\frac{19.3 \sim 24.0}{21.6}$

#### 海水取入口

水温(°C)	$\frac{17.8 \sim 20.40}{18.83}$	$\frac{18.90 \sim 22.50}{20.53}$	$\frac{18.80 \sim 22.18}{20.71}$
比重(15°C)	$\frac{25.20 \sim 20.40}{25.61}$	$\frac{24.90 \sim 25.73}{25.49}$	$\frac{25.16 \sim 25.69}{25.54}$

## 2. MS-222による麻酔テストの1例

供試魚類：ハモ（全長 75 cm）

40ℓバットの海水中に行ない、テスト中、エアストーン2個による曝気を行った。水温は19.8℃。

1万分の1溶液に移して3分後に失衡（横転）、鰓蓋運動が緩くなり、刺戟に対する反応がなくなった。釣針の除去に2分を要し、新鮮海水に戻して5分後に平衡は回復したが、まだ物理的刺戟には反応せず、25分後には全く正常に回復した。

## 3. トラフグの寄生虫

2月8日入槽（近大養魚場より）、4月23日死亡したトラフグ（全長45cm 2.3kg）に寄生していた寄生虫は次の通り。

寄生部位	種類
鰓蓋内面（戻状に吸着）	Heterobothrium tetrodonis（単世代吸虫）
腸間膜・肝臓表面	Anisakis sp. 幼生（線虫類）
口腔	Clavelloopsis hugu（コベポーダ）
肝臓に陥入	Floviceps saccatus 幼生（条虫類）

京都大学理学部瀬戸臨海実験所職員名簿

身 分	氏 名	分 担 業 務
教 授 ( 兼 )	市 川 衛	所 長
"	内 海 富士夫	学 芸 員
助 教 授	時 岡 隆	"
助 手	布 施 慎一郎	" , 施設, 機械
"	西 村 三 郎	図 書
"	荒 賀 忠 一	学芸員, 飼育, 採集, 機械
教 務 員	田名瀬 英 朋	飼育, 採集
文 部 技 官	近 藤 貞 三	機 械
"	浦 舟 二	採集船運転, 採集
技 能 員	左 海 昭 三	採 集
"	樫 山 嘉 郎	機械, 飼育, 採集
用 務 員	森 山 惣 一	飼育, 採集
"	太 田 満	" "
文 部 事 務 官	田 中 謙 蔵	事 務 掛 長
"	布 施 良 子	会 計
事 務 員	真 鍋 寿 啓	出 納
"	芝 脇 喜久代	出 札
"	赤 松 里 美	庶務, 研究補助
用 務 員	古 家 昭 二	改 札
"	谷 坂 美和子	会 計
"	辻 豊 松	学生宿舍管理
臨 時 雇	深 見 省 三	庶 務
"	南 勲 一	改札, 場内整理
"	南 美代子	" "
"	辻 キクエ	雑 役
"	辻 ワキエ	学生宿舍食堂
"	上 田 すみれ	清 掃

昭和39年5月15日 (No.140)

編集兼発行者 市 川 衛

発 行 所 京都大学瀬戸臨海実験所

和歌山県西牟婁郡白浜町

電話 (白浜)2047.3515